

日本顕微鏡歯科学会

第 17 回学術大会福岡大会

報告書

日本顕微鏡歯科学会第 17 回学術大会実行委員会

和田 尚久

日本顕微鏡歯科学会第 17 回 学術大会 大会長

九州大学病院口腔総合診療科 教授

原口 晃

日本顕微鏡歯科学会第 17 回 学術大会 実行委員長

九州大学病院口腔総合診療科 助教



2021 (令和3) 年 4月 24、25 日および 4月 29 日～5月 9 日 (振り返り視聴期間) の計 13 日間の会期で日本顕微鏡歯科学会第 17 回学術大会福岡大会が開催されました。コロナ禍により 1 年延期後の大会となり、「顕微鏡歯科のネクストステージ」を大会テーマとして、大会長の和田尚久 (九州大学病院口腔総合診療科)のもと、本学会初のオンラインにて開催しました。オンライン開催の長所である全国、世界各地から場所と時間を選ばずに参加できたことになったためか、海外からの約 20 名の参加者を含む、これまでで最多の計 910 名を超える方々に参加をいただきました。

日本顕微鏡歯科学会第17回学術大会

総会

顕微鏡歯科のネクストステージ

「大会テーマ」

WEB開催

https://www.kenbikyoshika.jp/congress/17th_Fukuoka2021/index.html

【会期】2021年4月24日(土)、25日(日)
振り返り視聴期間 4月29日(木・祝)ー5月9日(日)

【大会長】和田尚久 | 九州大学病院 口腔総合診療科
【大会実行委員長】原口晃 | 九州大学病院 口腔総合診療科
【大会事務局】九州大学病院口腔総合診療科
〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 TEL | 092-642-6490

【特別講演】
医療における顕微鏡手術の黎明と進化
— MIS (Micro Invasive Surgery) 時代への提言 —
尾崎 弘明 (福岡大学医学部歯科学教室 教授 兼 部長)

【シンポジウム】
マイスタイル～今の私はこうしている～
Dr 長尾 大輔、Dr 土田 晃太郎、Dr 加藤 あゆ美、Dr 篠永 美佳

The Modern Microscopic-Endo-Restorative Technique
【案内】Dr 澤田 則宏 (医大) Dr 瀧美 克幸、(福大) Dr 内山 徹哉

【DH シンポジウム】
飛躍のヒントはここにある
～マイクロビギナーからその先へ！～
DH 岩山 亜里奈、DH 岡 由美、DH 佐藤 由美

【企画講演】
The Academy of Microscope Enhanced Dentistry (AMED) 会員講演

THE 17TH ANNUAL MEETING & SCIENTIFIC SESSION

JAPAN ASSOCIATION OF MICROSCOPIC DENTISTRY

<http://kenbikyoshika.jp/>

日本顕微鏡歯科学会 第17回学術大会
The Japan Association of Microscopic Dentistry (JAMM) The 17th Annual Meeting

4月24日 (土) 16:00～ / 25日 (日) 9:00～

ライブ配信会場はこちらから

プログラム&抄録 (日本語) / Program & Abstract (English)

参加者ダウンロード

日本顕微鏡歯科学会 第17回大会・総会
ライブ配信会場はこちらから

4月24日 (土) 16:00～ / 25日 (日) 9:00～

Sponsors: Dentsply Sirona, TOKYO SHIZUISHA, MARY DIA, PENTRON JAMNET, ivoclar vivadent, INTERACTION, carina, STS, DENTALEAB, FOLK, MOKUDA, YAMAHAN, YDM, YOSHIDA, etc.

Abstracts: OP-01, OP-02, OP-03, OP-04, OP-05, OP-06, OP-07, OP-08, OP-09, OP-10, OP-11, OP-12, etc.

映像が再生されない場合はこちら。

【大会 1 日目 4 月 24 日（土）】

15 : 00 より動画配信を開始しました。

OPENING CEREMONY : 開会式

先ず大会長の和田尚久と本学会会長の北村和夫先生（日本歯科大学附属病院総合診療科）より開会宣言ならびに開会の挨拶がありました。



北村和夫会



大会長挨拶

KEYNOTE LECTURE : 特別講演

続いて、福岡大学医学部眼科学教室の尾崎弘明診療教授による特別講演「医科における顕微鏡手術の黎明と進化 — MIS (Micro Invasive Surgery) 時代への提言 —」が行われました。眼科における顕微鏡手術の実臨床症例をわかりやすく供覧いただき、また歯科より数歩先を進んでいるモニターを見ながらの Heads-up surgery も紹介いただきました。歯科においても新たなマイクロスコープ時代の訪れが予感され、期待に胸が膨らみました。



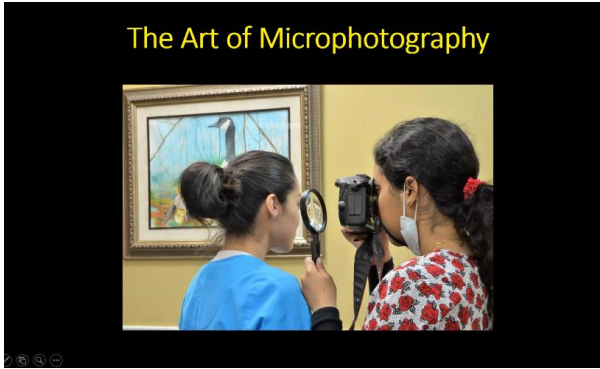
福岡大学医学部 眼科学
尾崎弘明

・「医科における顕微鏡手術の黎明と進化 — MIS (Micro Invasive Surgery) 時代への提言 —」

尾崎 弘明（福岡大学医学部 眼科学教室 診療教授）

SPECIAL SESSION : 企画講演

引き続き The Academy of Microscope Enhanced Dentistry (AMED)から 2 名の講師を招待し、講演が行われました。AMED member の顕微鏡臨床に関する考えが垣間見える充実した内容でした。今後の AMED と日本顕微鏡歯科学会（JAMD）との更なる交流が強く期待されます。



・「Art of Microphotography」
Jorge Zapata (AMED member)

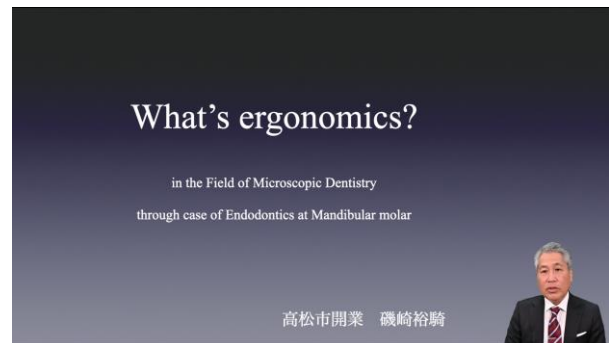


・「Restorative Microscope Centered Practice during COVID-19 Protocols」
Wayne David Remington (AMED member)

企業セミナー 1 (モリタ株式会社共催)

香川県ご開業の磯崎裕騎先生による企業セミナーが行われました。

・「What's ergonomics?」
磯崎 裕騎 (医療法人社団いそざき歯科)



President Award Lecture : 第 16 回大会長賞口演

1 日目最後のプログラムとして、第 16 回学術大会にて大会長賞を受賞した東京都ご開業の三橋純先生による口演が行われました。症例の供覧に加えて、顕微鏡の定義に関する提言も含んだ示唆に富んだ素晴らしいご口演でした。



・「同一口腔内に連続的にセメント質剥離が生じた 1 症例」
三橋 純 (デンタルみつはし)

以上のプログラムで 19 : 00 に 1 日目の配信を終了しました。バラエティーに富んだ演者による講演が続き、密度の濃い大会初日となりました。

【大会2日目 4月25日（日）】

2日目は9：00より配信を開始しました。

SYMPOSIUM I

マイクロスコープを用いた歯科診療は様々なスタイルで行われています。本シンポジウムでは「マイスタイル～今の私はこうしている～」と題して、歯科医師および歯科衛生士の立場から新進気鋭の4名の演者の先生方に、各々のマイクロスコープ歯科診療スタイルをご紹介いただきました。4者4様のスタイルを知ることができ、普段マイクロスコープを使用している参加者にとって多くのヒントが含まれる、有意義なシンポジウムでした。

座長：櫻井 善明（ネクスト・デンタル）、林 智恵子（ネクスト・デンタル）

・「歯科衛生士における苦手部位を克服する」

篠永 美佳

（デンタルクリニック K）

・「歯周外科にも使ってみようマイクロスコープ～マイスタイル：MIST～」

土田 晃太郎

（医療法人誠英会 土田歯科医院）

・「切らないで 広げてみよう ポケットを！～マイスタイル：Minimally Invasive Periodontal Surgery～」

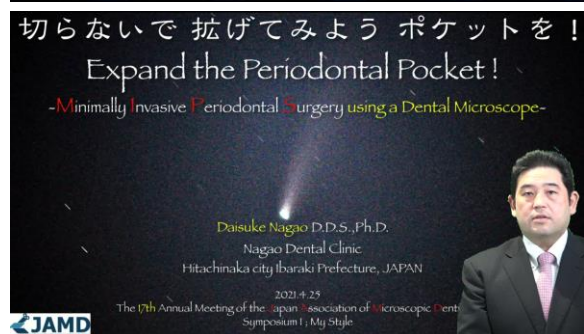
長尾 大輔

（長尾歯科）

・「マイクロスコープを用いた自費メンテナンス」

加藤 あゆ美

（ノアデンタルクリニック・ホワイトエッセンス）



企業セミナー 2（カールツァイス株式会社、白水貿易株式会社共催）

福岡県ご開業の柴原清隆先生による企業セミナーが行われました。

・「手術用顕微鏡 EXTARO300 の有用性について」

柴原 清隆（柴原歯科医院）



DH SYMPOSIUM

続いて、3名の歯科衛生士の先生方による「飛躍のヒントはここにある ～マイクロビギナーからその先へ!～」と題したシンポジウムが行われました。歯科衛生士がマイクロスコープ下で処置を行うためのノウハウやヒントがいっぱい詰まった素晴らしいシンポジウムでした。



座長：大野 真美（カガミ歯科医院）

・「実践！顕微鏡下でのペリオドンタルインスツルメンテーション」

佐藤由美（市川歯科医院）

・「使い方幅が広がる「背面ミラーテクニック」」

岩山亜里奈（はたなか歯科クリニック）

・「苦手を克服しよう ～屈曲チップとストレートチップの使い方～」

岡由美（フリーランス）

SYMPOSIUM II

最後に、「The Modern Microscopic-Endo-Restorative Technique」と題して、マイクロスコープを用いた歯内治療から支台築造を経て歯冠補綴までの最新の治療概念・方法を、各分野のスペシャリスト 3 名の先生方に講演いただくシンポジウムが行われました。これまでの知見ならびに演者の先生方の多くの経験から導き出されたポイントをわかりやすく提示していただき、最新の情報を得る機会になっただけでなく、あらためて一つ一つの治療ステップや手法に真摯に向き合う重要性を認識する機会となりました。



座長：三橋 純（デンタルみつはし）、三橋 晃（鎌倉デンタルクリニック）

・「歯内療法専門医が考える抜歯基準」

澤田 則宏（澤田デンタルオフィス）

・「支台築造におけるモダンテクニックの再考」

渥美 克幸（デンタルクリニック K）

・「Minimally invasive Prosthodontic treatment using all ceramics」

内山 徹哉（内山歯科クリニック）

CLOSING CEREMONY : 閉会式

来年の東京大会（日本顕微鏡歯科学会第 18 回学術大会・総会）の大会長である小林平先生（日本大学松戸歯学部クラウンブリッジ補綴学・口腔インプラント学講座）にご挨拶と来年の抱負を述べていただき、無事閉会となりました。

2日目は3つのシンポジウムが行われ、画面から目が離せない1日となりました。1日目が約4時間、2日目が約8時間半におよぶリアルタイム配信を行った2日間でした。全て視聴していただいた参加者（そのようなマイクロスコープ愛に満ちた猛者がいらっやっただかどうかは定かではありませんが。。）に於かれましては、心より敬意を表します。ありがとうございました。



【オンデマンド配信 4月24日（土）～5月9日（日）】

一般口演と企業展示（バーチャルブース出展、企業CM）をオンデマンド配信しました。

ORAL PRESENTATION：一般口演(オンデマンド)

海外からの2演題を含む計16演題の一般口演発表が行われました。代議員による投票の結果、大会長賞には表茂穂先生ご発表の「直視・直達を考える」が選出されました。おめでとうございます！



【振り返り視聴 4月29日（木・祝）～5月9日（日）】

各講演、口演およびシンポジウムの振り返り視聴配信を行いました。また参加者からの質疑に対する各演者による返答内容を配信しました。併せて、日英および英日通訳動画も配信しました。

【最後に】

思い返してみると、結果的に準備に3年以上かけた大会になりました（「構想3年、製作2年半をかけた超学術大会！」のようなキャッチコピーを後付けで付けても良かったかもしれません）。元々は2020年開催の学術大会長を、ということで打診いただいたのが**2018年3月**でした。そこから2年後の開催に向けて少しずつ準備をはじめ、私の教室の医局員と開業医の先生方との合同メンバーで実行委員会を組織し、**10月**にキックオフ壮行会を行いました（遠い昔の記憶です）。そこから1年ほどかけて、どこで行うか、企画をどのようにするか、東京大会に負けない学術大会にしようと、メンバーで活気良く多くのことを検討していました。



キックオフ壮行会
（この頃は会食をできていました）

2019年に入り、会場が福岡市天神にあるアクロス福岡に決まり、**4月**の東京大会（第16回大会）を経た後に、紆余曲折があった企画も本格的に決定していき、さらには懇親会場も決まり、と順調に準備が進行していきました。演者や座長の先生方への依頼、参加登録の案内、一般口演の募集等も行いました。



会議風景（2020年2月まで）

年が**2020年**に代わり、一般口演の申し込みも数が集まってきて、「さあ、しっかりと開催をしなければ」と委員会メンバーで話し合っていた最中に、COVID-19の感染拡大で世の中の状況が一変してしまいました。開催直前の**3月**に学会執行部の先生方と話し合いを持ち、2020年の学術大会は2021年に1年延期することになりました。一旦、申し込みいただいた参加費や企業協賛費を返金し、2021年大会を新たに準備していくことにしましたので、2020年の幻の大会の残務処理と2021年大会の準備（この時



会議風景（2020年3月以降）：その後はついに集まることができませんでした

点では、会場開催、オンライン開催、ハイブリッド開催の3パターンを想定しながらの準備を余儀なくされました)を並行して行うという、平時の学会準備の3倍以上の負担を実行委員会メンバーにかけてしまうことになってしまいました。最終的には、**9月**にオンライン開催(振り返り視聴期間を含む単方向性の配信)を選択することになりましたが、これも実行委員会で非常に時間をかけての話し合いの結果、決定したことです。本当にベストな選択であったのか、はわかりませんが、参加者の皆さんの評価に委ねたいと思います。少なくともウィズコロナ・ポストコロナ時代の学術大会開催方法の参考になるような大会になってくれれば、と願っております。

最後に、参加者、協賛いただいた企業の皆様、学会役員、演者および座長の先生方、そして企画立案から始まり一旦は学会会場や懇親会会場の設定を、延期決定後は動画撮影の手配や編集を含めて様々な準備に**2年半以上**(実行委員会開催回数は**20回**)にわたって尽力をしてくださいました実行委員会の先生方に心より感謝申し上げて大会報告とさせていただきます。ありがとうございました。

文責：和田